開会の辞

国際センター長、法学部教授
松田　宏一郎

社会学部長
奥村　隆

○**金庭**　皆様、本日はお忙しい中、「立教大学日本語教育センターシンポジウム2014」にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。本日、司会の進行役を務めさせていただきます日本語教育センター員、金庭久美子と申します。

はじめに、開会の辞をお二方から頂戴したいと思います。まず、国際センター長、松田宏一郎先生にお願いいたします。

開会の辞(1)

○**松田**　私は国際センター長の松田と申します。本日は日本語教育センターシンポジウム、テーマが「大学の国際化と大学評価」ということで、お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。とりわけレクチャー、ディスカッションにおいでいただきました東京大学の長尾眞文先生と、国際基督教大学の小澤伊久美先生、どうもありがとうございます。

立教大学は、スーパーグローバル大学創成支援の指定を受けまして、これから10年、積極的にプログラム展開をおこないますが、これまでの学生交換を中心としたプログラムだけではなくて、より多様なプログラム、複数の大学を巻き込んだコンソーシアム的なプログラム、研究レベルのさまざまな交流、それから、教員及び職員が外国語でのトレーニングを一緒に行うなど、いろいろなプログラムを展開しようと考えております。どれにつきましても、日本語教育のレベルがどれだけ充実しているかということが、やはり大学のプログラムの充実に直結してくる問題になってきます。スーパーグローバル大学創成支援を受けるというこ

日本語教育センター員
金庭　久美子

とは、そのプロジェクトを進行させる大学組織全体が評価を受けるということですので、立教大学にとっては非常に重要な問題になってまいります。もちろん、東京大学、国際基督教大学でも同じで、またあるいは、全国の大学にとっても同じ問題がこれから広がっていくということになります。本日のシンポジウムが必ずそういった問題についての貴重な示唆を与えていただけるものとして、大変期待しております。簡単ではございますけれども、本日のシンポジウムが充実したものになるよう、お祈りいたします。どうもありがとうございました。

○**金庭**　松田先生、ありがとうございました。

次に、社会学部長、奥村隆先生にご挨拶を頂戴いたします。奥村先生、お願いいたします。

開会の辞(2)

○**奥村**　社会学部長の奥村と申します。本日はお忙しいなかお越しいただきまして、どうもありがとうございます。学部長がひとり日本語教育センターの運営委員に入るということになっておりまして、私はこの 2 年間、運営委員をさせていただいております。それまで日本語教育センターとかかわりがあったわけではないのですけれども、こういう形でかかわらせていただいて、私はここに大学のグローバル化、国際化というものの現場があるのだという思いを強くしております。日本語教育センターは、日本語クラスの運営、プレイスメントテスト、立教独自の漢字検定の開発、日本語相談室の運営、日本語スピーチコンテストの開催など、ほんとうに多岐にわたる活動をしています。その場、その場でそれぞれの留学生に対応した、まさに国際化の現場がここにあるように感じております。もしかしたら戦場のようなところでセンター長の丸山先生、異文化コミュニケーシ

ョン学部長の池田先生はじめ、センター員の方々が奮闘しておられる姿をおそばで見させていただいてきました。先生方は超人的な努力でこのセンターを支えておられると感じています。

同時に、このセンターは中長期的なビジョンをいつも考えています。先ほど松田先生からスーパーグローバルのお話がありましたけれども、これから留学生の受け入れが増大していって、言ってみれば、どの大学も海図のない海に船出していくようなところがあるのではないかと思います。その中で、運営委員会に出させていただきますと、日本語教育センターは常に、これからの立教大学の日本語教育、留学生受け入れをどう考えればいいのか、どうサスティナブルなものにしていくか、発展させていくかという中長期的な構想を話している。いわば、いまここで現場に対応しながら、同時にそれを俯瞰して長期的なパースペクティブをつくる、という 2 つの作業を同時にやっているように感じております。

きょうのプログラム評価というシンポジウムは、恐らくその中長期的なビジョンを考える手がかりになり、現場と中長期的な長いスパンのビジョンをつなぐような役割を果たすことになるのではないかとも思います。きょうのシンポジウムが意義あるもの、充実した実りあるものになるように願っております。本日はどうもありがとうございます。

○**金庭**　奥村先生、ありがとうございました。